

## コヒオドシ

藻岩山の最上スキーリフト終点は、作業に入った時の昼食休憩場所なのです。2010年7月14日、弁当を食べ終えてくつろぐ仲間たちの雑談を聞いていましたら、飛び方に特徴があるタテハチョウが私の視野を掠めて近くの地面に止まった気配でした。おっとりカメラを構えながら近づきました。初めてのコヒオドシとの出会いでした。なんとも美しい蝶ではありませんか。撮影時刻は12時22分でした。



過去に出会えなかったのは当然のことで、分布が北海道と本州では日本アルプスおよびその周辺の標高1,500mの高山地帯に限られているのでした。胴体の周りに保温のための濃い毛が密生している典型的な高山蝶でした。

タテハチョウたちは表翅の美しさに反して裏翅は汚いデザインなのです。この蝶もご覧のように翅を閉じた状態では裏翅しか見えませんので、静止されたら木の肌や葉陰の保護色となって、見えにくくなるのです。

出現時期は7月から、多くのタテハチョウ仲間と同様に成体で越冬すること。食草はエゾイラクサ、ホソバイラクサ他のイラクサ科の植物ですから、素手で触るとチカチカして厭な植物ですが、この美しい蝶に免じてイラクサに出会っても刈り取ったり、踏んづけたりしないで頂きたいお願い申し上げます。まして画像のようなイラクサの葉にたかる毛虫にであつたら、退治するなどはゆめゆめなさないでください。



命名は左の画像のヒオドシチョウに模様が似ていることで、それより少し小型であることからコヒオドシと命名されたとのことですが、たしかによく似ていますよね。しかし近縁ではないそうです。このヒオドシチョウにも未だお目にかかったことがありません。どこかでの出会いを切に期待する次第であります。